



一貫コース通信

「福島成蹊中学校学校行事実践報告」を作成して

自然の力は偉大であり、時には私たち人間にはどうすることもできないような巨大な力を振りかざし、多くの人々を傷つけ、深い深い悲しみを与えることがあります。様々な自然災害を経験したり、その様子を見聞きするたびに恐ろしさを感じるものがしばしばあります。こう感じる私は、「人間が中心。人間が第一。」と考えている人間のひとりなのだと思います。

そんなガチガチに固まった私の頭にスッと風穴を開けてくれる瞬間がありました。それは、体験学習の中で自然の美しさや豊かさ、おもしろさに触れたときです。雲一つない青天の中、太陽の光をキラキラと照り返す猪苗代湖を見たとき。磐梯山に登頂した際に見た360°の大パノラマ。尾瀬で見た無数の星々を、口を開きながら眺めた瞬間。地引網で捕まえた小魚をから揚げにして食べたとき。波の力を使って生徒たちと波乗りを楽しんだ時。私たちは自然の中で生きているのだと改めて実感する瞬間でした。

人間は自然の中の一部であり、その中で自然界の様々な恩恵を受けて種をつないできているのです。私たちの暮らしが便利になればなるほどその感覚は薄れていき、きっと自然に大きな負担をかけているのだと思います。これからますます“便利”が進んでいくであろう時代を生きていく生徒たちにとって、この感覚は大切なのだと思います。これまで本校の体験学習を経験してきた生徒たちには、その感覚の“種”がまかされているはずですが、彼らが大人になり、この感覚が薄れていくようなことがあったとしても、ふと自然の魅力に触れたときに“芽”を出し、その感覚を次の世代にも繋いでくれることを願っています。

福島成蹊中学校学校行事のプログラムを0ベースから作り上げてきた諸先生方の知恵と情熱が、今の福島成蹊中学校の学校行事に繋がっています。試行錯誤の連続だったと思いますが、諸先生方の苦勞があったからこそ、このような生徒たちのいきいきした表情や大きな成長に繋がっているのだと思います。今後も、根底に流れているスピリッツは継承していきつつ、試行錯誤を繰り返しながら“よりよいモノ”を模索し続けていきたいと思っています。また、本校の生徒たちの健やかな成長のために、これまで様々な方々から、多大なる支援や協力をいただいたことに深く感謝いたします。“人”もまた自然の一部であり、様々な人と共に生きていることも、生徒たちには忘れずにいてほしいと考えています。要は「感謝の気持ち」を忘れない。ということです。学校行事を準備・運営し、無事に終了したときに毎度感じることは、たくさんの方々が支えてくれることに対して「ありがたい」という感謝の気持ちです。

これからもたくさんの“人”の支えをいただきながら、そして“自然”の力・恩恵もいただきながら、生徒一人ひとりの健全な成長、逞しい人間への成長、桃李の精神を体現できる人間へ近づけるよう、学校行事を実践してまいります。

